

4月も値上げ続々

三月に続き、新年度が始まる四月もさまざまなモノやサービスが値上げされる。原油価格の高騰に伴う物流費や原材料費の値上がりも理由で、円安も上昇の圧力になっている。値上げは食品のほか紙製品や調味料、家電など広範囲に及ぶ。ロシアのウクライナ侵襲も穀物や原油の価格を一段と押し上げている。

4月に予定される主な値上げ

商品(企業名)	値上げ幅・額
輸入小麦 (国の売り渡し価格)	17.3%
チルド麺 (東洋水産)	6~13%
レトルトカレー (大塚食品)	10円 (税抜き)
食用油(日清オイリオ)	40円以上 (1キロ当たり)
トマトケチャップ(カゴメ)	3~9%
コーヒーなど (スターバックス)	約10~55円 (税抜き)
紙おむつ (花王)	10% (店頭価格は100円前後上がる可能性)
トイレットペーパー (日本製紙クレシア)	10%以上
スチームトースター (パルミューダ)	2090円
蛍光灯(パナソニック)	約30%
カセットこんろ (岩谷産業)	約5~15%
タイヤ (ブリヂストン)	7~10%
電気(東京電力)	115円 ※
ガス(東京ガス)	83円 ※
首都高速道路	上限料金の引き上げ1320円から1950円に
国内線航空運賃 (日本航空)	約8% (大人普通運賃)

※各社が想定する標準的な家庭の場合

を運ぶ際の物流コストが増すと増加分を販売価格に上乗せ。日本航空は国内線の一部運賃を引き上げる。食品では、小麦を原料とするパンや麺類が値上がりする。小麦は国が輸入して影響を受けた。食用油も大豆などの価格高騰を受け、製粉業者に売る仕組みで、売り渡し価格は四月九月が前期(昨年十月~今年三月)比で17.3%上昇。ロシアが輸出規制を強化する

主食のパンは、原材料の小麦の価格が昨年より北米パンに添えるシヤムも、

朝の食卓直撃

豆などの価格高騰を受け、日清オイリオグループが値上げる。(大島宏一郎)

パン 3% シヤム 7%
コーヒーは20%上げ

での不作などの影響で上昇。一月からフジパンが8%、山崎製パンが7.3%の値上げを発表した。調査会社インテリシ(東京)によると、全国のスーパーの食パン一斤の二月の平均価格は百四十四円で、昨年四月(百三十五円)と比べ九円上がった。

二度の値上げを実施し、果実原料と食用油の価格高騰を理由に、アラハタが二百五十一円だった「アラハタ 55 イチゴ」(百五十)を百六十二円とするなど、一月から三十五品目の価格を3~7%上げた。

果実原料と食用油の価格高騰を理由に、アラハタが二百五十一円だった「アラハタ 55 イチゴ」(百五十)を百六十二円とするなど、一月から三十五品目の価格を3~7%上げた。

毎日口にする食材だけに家計への負担は大きい。この一年の食費の負担増を、第一生命経済研究所の永浜利広さんは「三人家族で月三千円程度」とみる。さらに「ウクライナ侵襲で小麦はいつそう高騰する。製品価格に転嫁される来年から一気には上がるだろう」と語る。(大島寛平)